

アンハラス大学とフィリピン大学マニラ校で特別講義を行いました(2016/1/9, 11)

テーマ：ヒューマンセキュリティとグローバルヘルス、災害保健医療

会場：アンハラス大学公衆衛生学専攻、フィリピン大学マニラ校救命救急医学講座（アンハラス市、マニラ市）

2016年1月9日（土）にフィリピンのアンハラス大学公衆衛生大学院において江川新一教授が『ヒューマンセキュリティとグローバルヘルス』と題して特別講義を行いました。アンハラス大学と IRIDeS は部局間学術交流協定を締結しており、その一環となるものです。災害では、人間の安全性が重大な危機にさらされます。国連でも 1995 年を契機に加盟国の安全保障から、人間の安全保障（ヒューマンセキュリティ）を中心に据えて行動や政策の枠組みが決定されています。

江川新一教授は、『恐怖からの自由、欠乏からの自由、尊厳ある生活』という3つのヒューマンセキュリティの根幹をなす定義を紹介し、アンサーパッドを用いて約 50 名の聴講者がフィリピンにおけるヒューマンセキュリティの達成度をどう考えているかを尋ね、多くの参加者がフィリピンにおいてはヒューマンセキュリティが達成されていないと考えていることがわかりました。PDCA サイクルを考案したエドワード・デミングの『測定できないものは改善できない』という言葉引用し、社会体制のような測定することが困難なものをどのように科学的にとらえて具体的な改善につなげるかについてもアンサーパッドによる測定評価は効果的です。

災害、疫病、貧困、公害、紛争などによってヒューマンセキュリティは大きく脅かされます。ハザードと地域社会の脆弱性・対応能力によってきまる災害被害の関係を、病気の原因と個人の遺伝要因・環境要因・脆弱性によって決まる疾病の関係になぞらえ、いかにリスクを少なくするかが防災・減災、病気の予防・治療と共通した概念で理解されることを講義しました。また、世界中で近い将来に予測される高齢化とリスク変化が予防や対応を複雑にしていることの重要性についても強調しました。

さらに、江川新一教授は 1 月 11 日（月）に同じく IRIDeS と部局間協定を締結しているフィリピン大学マニラ校において、救命救急医学講座の医師・看護師・レジデント（専門修練医）約 50 名を対象に『災害の保健医療管理』について特別講義を行いました。同様にアンサーパッドを用いた双方向性の授業により、問題意識を啓発し、聴講者の参加を促しました。

東日本大震災前のわが国の災害保健医療体制の備え、東日本大震災で浮かび上がってきた課題、仙台防災枠組にいたるまでの国際社会の対応と、そこに健康が大きく取り上げられたことの意義について講義しました。医療従事者の中における国際的な防災枠組の認知度は 20%以下で、まさに仙台防災枠組が提唱するターゲット d『社会のなかで重要なインフラ、とくに教育機関と保健医療機関の強靱化を飛躍的に向上する』こと、および『各国で保健医療従事者の防災意識を高め、災害医療体制を構築する』ことの重要性が問われています。

フィリピン大学マニラ校救命救急医学講座の Teodoro Herbosa 准教授は、2013 年 11 月にレイテ島を襲った台風ハイエン当時は保健省次官であり、『災害のときに最後まで立ち続ける安全な病院』のあり方を検討する会議の座長をつとめ、同会議で江川新一教授も東日本大震災で病院が受けた被害と対応策について報告しました。アジア・パシフィック災害救急医療会議、国際 NGO アジア防災センターが推進する病院防災教育プログラム（HOPE）のインストラクターでもあります。

IRIDeS は災害医学の基本的な概念を一般の医療従事者にわかりやすく伝えるとともに、国際的な災害にも対応できる保健医療人材の育成を国内外で行っていきます。



江川新一教授を紹介するアルキメデス学業担当
副理事長



講演する江川新一教授



熱心に聴講する公衆衛生大学院、医学部の学生
たち



アンヘレス大学公衆衛生大学院の Carmela
Dizon 専攻長（右端）、教授陣と



フィリピン大学マニラ校において特別講義を行
う江川新一教授



救命救急医学講座のレジデント、看護師



講義に対して質問する救命救急医学講座の
Jorge Conception 主任教授



フィリピン大学マニラ校の Armando
Crisostomo 副学長（右から2人目）、救命救
急部 Teodoro Herbosa 准教授（右端）、救命
救急医学講座 Conception 教授（左端）、災害
担当ドクター（左2番目）と。

文責：江川新一（災害医学研究部門）